

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

鳥取県日南町

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

鳥取県日南町 SDGs未来都市計画
第一次産業を元気にする ～SDGsにちなんチャレンジ2030～

-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

鳥取県日南町 SDGs未来都市計画 第一次産業を元気にする ～SDGsにちなんチャレンジ2030～

(2) 2030年のあるべき姿

日南町は「日本の30年先を行く町」としての自覚を持ちつつ、平成27年8月策定の「まち・ひと・しごと創生 日南町人口ビジョン・総合戦略」により、「創造的過疎のまち」を骨格として持続可能なまちづくりへの挑戦を行ってきた。

本町の恵まれた森林資源を余すところなく有効に利用する「カスケード計画」の理念に基づき、既存の森林施業に加わる新たな産業の創出、次世代を担う子ども達への森林（木育）教育、ふるさと教育の推進による地元への定着促進、女性や民間等の専門人材の活用をさらに促していくとともに、圏域内での経済循環の活性化など、様々な課題を環境面、経済面、社会面等の側面から総合的に解決していくため、SDGsを中心に据えた「持続可能なまちづくり」を目指していく。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
		  

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	木のおもちゃの製造 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 1 団体	2020年3月	1 団体	2030年3月	3 団体	0%
2	木のおもちゃの販売 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 2 品目	2020年3月	4 品目	2030年3月	30 品目	6%
3	木育を基軸としたコワーキングスペース、世代間交流拠点の整備 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 0 施設	2020年3月	0 施設	2030年3月	1 施設	0%
4	木材製品を活用した女性による新規産業の創出 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 0 人	2020年3月	0 人	2030年3月	3 人	0%
5	林業アカデミーの開校による林業従事者の確保 【ゴール11 ターゲット11.3】	2019年7月 0 人	2020年3月	9 人	2020年3月	100 人	9%
6	森林教育プログラムの構築 【ゴール13 14 15 ターゲット13.1 14.1 14.2 15.1 15.2】	2019年7月 1 回/年	2020年3月	1 回/年	2020年3月	1 回/年	100%
7	森林保全強化につなげる企業等との連携（J-クレジット） 【ゴール13 14 15 ターゲット13.1 14.1 14.2 15.1 15.2】	2019年7月 615 t/年	2020年3月	658 t/年	2020年3月	400 t/年	164%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ①②については、微増ではあるが木のおもちゃの製造品目が増加している。また、町外から木のおもちゃの製造等に従事したいといった相談件数もあり、今後、移住定住施策も含めて森林のまち・日南町を発信し、新たな経済の掘り起こしに努めていく。
- ③については、町内外の子育てグループ等とも相談しながら、拠点の整備に向けた情報交換を行っており、2030年度に向けた整備を目指す。
- ④については、地域おこし協力隊等の活用も含め、2021年度中に全国から広く公募を行うこととし、目標達成を目指す。
- ⑤については、林業アカデミーへの入学者は毎年10名程度を見込んでおり、2021年度には13名が入学した。今後も、卒業生のうち、町内への定住による林業の担い手確保に努め、今後も継続した学生の確保、林業従事者の育成を図ってきたい。
- ⑥については、最低限年1回の森林教育を実施していくこととしているが、保・小・中学生のすべての年齢層において年1回の森林教育が実践できるよう努めていく。
- ⑦については、脱炭素社会の高まりからJ-クレジットの販売は増加傾向である。今後も継続した販売により、持続可能な林業の循環が図れるよう努める。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	しごとづくり、安心して働けるまちづくり	新規就農者	2018年実績 2名		2019年実績 3名	2020年実績 4名	2021年目標値 10名	25%
2		新規林業従事者	2018年実績 0名		2019年実績 5名	2020年実績 9名	2021年目標値 15名	60%
3	日南町への移住、定住の促進	移住定住者の促進	2018年実績 56名		2019年実績 97名	2020年実績 193名	2021年目標値 600名	25%
4	安心して暮らし続けられる地域づくり	地域間経済循環率の向上	2013年 47.9%		2019年(直近値2015年) 39.5%	2019年(直近値2015年) 39.5%	2021年目標値 50%	79%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

日南町がこれまで実施してきた行政施策は、個々の対策としては一定の成果を上げてはいるものの、大局的には人口の流出が止まらず、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルからの脱却には至っていない。こういった課題に対応すべく、日南町においては、SDGsの17のゴールに向けた取り組みを推進していくことはもちろん、17番目の項目である「パートナーシップで目標を達成しよう」に力を入れ、地域の産官学金が連携した形で持続可能な地域づくりを行っている。とくに、地方創生に重要な役割を担っている地域金融機関と密に連携し、地域内、圏域内での経済循環を促す仕組みや、民間企業のESG経営を推進するため、ステークホルダーとの連携を図っていくこととしている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

1、2「新規就農者、新規林業従事者の確保」については、既存の農業研修制度のメニューの刷新、また全国初の町立林業アカデミーの開校により、新規就農者や新規林業従事者の確保につながった。
3「町外からの移住者」については、当初値と比べて減となった。コロナ禍ではあるが移住者の増を図るため、子育て世代をターゲットとした木育、森林教育を基軸とした施策を推進していく。
4「地域経済循環率」については、数年に一度更新されているが、直近値である2015年度では、2013年度を下回る結果となった。今後、圏域での経済循環を促す取り組みを図るとともに、圏域外からの資金等の流入を図る取り組み等、推進していきたい。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・高齢化率が高い中で、事業計画に沿って事業を実践し成果が上がっている点が良い。林業アカデミーの卒業者が定住している点も評価できる。移住・定住者の増加は、まちづくりが成功している結果であると思料する。
- ・自立的な地域経済循環について定量化して着実に取り組んでいる。金融機関のコーディネートによるJクレジットの販売等など、先導的な取り組みが実現しており評価できる。
- ・新たな取組によりSDGsを推進することがよりアピールされることを期待する。